

5日で5000枚の約束。

災害時に、全国の畳店から避難所に新しい畳を無料で届けるプロジェクト。

⊕ 被災地の畳店が、全国の仲間から避難所に敷く畳を受け取るプロジェクト。

tataminoyakusoku.net

5000枚の約束



vol.011

[Topic]

02-03. FORCUS | 特別対談 vol.11 04. ACTION | 協定の締結やイベント参加

05. CHRONICLE | プロジェクト発足～現在までの歩み 06. プロジェクト参加畳店 07. プロジェクトサポート企業



地元メンバーからの報告

祭りを真ん中に復興は続く。

能登半島の現在地

2024年1月1日に発生した能登半島地震。石川県内の避難所13ヶ所に新しい畳1291枚をお届けし、その後も畳の移設や訪問などを重ねてきました。それから約1年半。当時、現地畳店として市役所や避難所との調整を行ってきた松本隆（七尾市）に現在の様子を伝えてもらいました。

自 分自身の家は無事だったこともあり、普通の生活をさせてもらってますが、七尾市でもまだまだ解体が進まない家や、仮設住宅に入った方々が家を建てられない状況は続いています。ぼつぼつと新しく建っている家も出てきましたが、平屋がとにかく多い。みんな口を揃えて「二階建ては怖いから」と言っています。

住む場所をどうするか、というのは周りの知り合いと話していても大きな問題になっています。ここで暮らしていくのか、金沢などの別の場所に住むのか。おじいおばあは暮らしてきたこの土地が良くて、若い人たちは子どものことや買い物などのことを考えて能登を離れることも考える。実際、友人も娘さんと金沢で暮らすのか、決断を迫られています。次へのステップのために誰かが何かを飲み込まないと進んでいけない。特に私ら世代は次の世代のために飲み込まないといけない、ってみんな思ってるんじゃないでしょうか。正直、そういうことを聞くと、なんとも言えない気持ちです。時間がゆっくりだったら色々考えられたらと思うけど、一気にきちゃったから。守ってきたものもあるだろうし、まだまだ葛藤していると思います。

一方、もう一度家を建てたり、修理して住みたくても、進まない状況も。原因のひとつとして、とにかく職人さんが足りない。私も「梅雨の前に修理したい」とお客さんから依頼があったけど、職人さんがどうしてもつかまらなくて断るしかなかったことも。それも本当に辛かった。

このまま人口が減り続ければそれぞれのなりわいが回らなくなる可能性もあるなど。そもそもコロナ禍でお客さんが戻りきってないところに地震だから。よく通ってた喫茶店も店を閉めちゃったし、知り合いのカレー屋と話してもコロナ禍の前には戻ってないと。あと個人的にとってもさみしいのは、七尾の人間にとって象徴だった和倉が変わってしまったこと。たくさんの温泉旅館が傾いて壊されてしまって、景色が一変してしまいました。今でも営業しているのは片手で足りるくらいです。

そんな中でやっぱり大きな存在となっているのは、なんといっても、祭り。能登は一年中祭りをやっていると言われてるくらい、祭りが根付いているところ。心の支えです。震災直後は中止が多かったけど、最近また祭りをできるようになってきて。祭りは本当に元気が出ます。人が少なくなると担ぎ手がいない地域は大学から助っ人が来てくれたり、金沢から手伝いに来てくれたりして。若い人たちも祭りを盛り上げようという動きを感じます。

能登半島の復興は、都会での復興とは違うんだろうなと思います。今も正直、復興が進んでるのか、進んでいないのか、早いのか遅いのかもわかりません。（松本隆）

「でか山」と呼ばれる見山が登場する七尾市の書拍祭。震災後、年々盛りに行われた。

FOCUS
[連載]



これまでも、 これからも。 畳一枚でも避難所に。

— プロジェクト10年の歩みを振り返って —

特別対談 vol.11

前田敏康 (「5日で5000枚の約束。」代表・前田畳製作所)

×

有田佳浩 (「5日で5000枚の約束。」立ち上げメンバー・コペルニクスデザイン)

前田敏康

東日本大震災で何ヶ月も冷たい床の上での避難生活をされている映像を見て「畳店として、なんとかしたい」と強く思った前田（当プロジェクト代表）。当時、親交のあった有田（コペルニクスデザイン）に相談したのがきっかけでともに活動を始めた2人が、全国の畳店と走り続けてきた10年を振り返ります。

迷いが吹っ切れた 避難所経験者の一言。

前田: なんとかしたいという想いはあったものの、実際にはどうしたらいいのかわからずで、各地の自治体を訪問して自分たちができることを模索しましたよね。

有田: とにかく現場で何が必要なかを聞いて回ろう、って。

前田: その中で訪れた宮城県南三陸町で、避難所生活を経験された女性と話す機会がありました。「ブルーシートの上では子どもを寝かせられず、ずっと抱っこをしていました」と。そして彼女が言ったんですね、「あの時、畳一枚でもあれば子どもに添い寝をしながらオッパイをあげられたかもしれない」って。それを聞いて、それまで自分の中で抱えていた「かえって迷惑にならないだろうか」とか「自分一人でするんだらうか」という迷いが一気に吹っ切れました。畳店みんなの力を合わせて、一枚でも届けるんだ、と。

有田: ほんとにあの言葉はこの活動の“道標”になりました。そしていよいよ2014年に神戸市と初めて防災協定を締結。そこからは滋賀や和歌山など近畿圏を中心に広がっていききましたよね。自治体によっては「古い畳が送られてくるんでしょ」って言われたりも。でもそれは前田さんが「絶対にしない」と。

前田: 畳店として、やっぱりイグサのいい香りがする新しい畳を使ってもらいたいというのが一番。あと、要らないものを送る活動には絶対したくなかったというのがあります。

有田: それがこのプロジェクトの「約束」だと。

前田: そうですね。「約束」という言葉は大事だったなと思ってます。手を挙げてくれた畳店が枚数を「約束」する。そこには「なんとなく参加」ではなく、みなさんの意思や強い想いがあるんです。

有田: 畳店に声をかけるとき、各地に足を運んで一回一回想いを

伝えてましたもんね。最初は仕組みがまだできていない状況だったから、何をやるの?という声もあったけど。

前田: そう。でも想いは強かったからそこにみんな共感してくれたんですね。やっぱり畳でなにか役に立ちたいという想いがあるのだと思います。だから「みんなでやったらできるんじゃないか」って一人がまた仲間を呼んできてくれて、そこから徐々に広がっていきました。想いをもった畳店さんがこんなにいるんだ、と。

主語が“送る側”と “受け取る側”の2つに。

有田: 正式に活動を立ち上げて翌年、2015年に口永良部島で噴火があり、屋久島の避難所に畳を届けました。

前田: 屋久島にメンバーはいなかったし、現地と電話もつながらなかったから、どうするべきか、あの時は正直悩みました。でも「行って駄目だったら帰ってこよう」と、近畿のメンバーに畳を作ってもらってトラックに積んで、現地に向かいながらネットで見つけた現地の畳店さんに連絡したら「待っておきます」といってくださったんです。それでフェリーの港に向かいました。到着したら受け入れ先もすでに探してくれていて、それで積んできた畳をお届けすることができました。その時に実感したんですね、「ああ、現地の畳店さんと連携をとりながら活動しなきゃいけないんだな」って。

有田: あれは大きかった。実際やってみたらこそ見えてきた課題でした。さらにその翌年、熊本地震が発生。このときは6026枚の畳を避難所40ヶ所へ届けました。これまでにない枚数です。

前田: まずは運送の問題で壁にぶち当たりましたよね。震災直後、現地に入って、最初は熊本に近い場所からトラックで畳を届けられてたからなんとなくかかってたけど、どんどん必要な枚数が増えていって、関東のメンバーにも畳を作ってもらうことに、

さあ運んでもらおうと思ったら、災害時は予想以上に運送費も高く、理事たちでお金を出し合ってもお金が足りなくなってしまって。そうしたら、全国のメンバーが「なんとか運ぶよ」って言うてくれて、関東からも、各地からも、トラックで中継に中継を重ねながら熊本まで運んできてくれた。熊本で待ち合わせ場所に行ってみたらトラックがずらっと並んで、ひげ生やしたままのみんなが「前田さん来たよ」っていつてくれた時のことは、今でも思い出すと胸が熱くなります。ああ、これで避難所に畳をお届けできる…ってという安心感と、畳店として被災地との約束を守るんだ、っていうみんなの意思の強さと優しさに…。

有田: 2人して泣きました…。

前田: ほんとに。そうやってようやく畳を現地まで運べたわけですが、避難所を回ると、全国から送られてきた支援物資で幼稚園がいっぱいになって人がそこに避難できないというような状況も目の当たりにして。我々の想いで突っ走って避難所の迷惑になることだけは避けたいとメンバーみんなで話し合いました。自分たちが現地に届けるのはもちろん、現地の仲間がちゃんとそれをさばけるようなプロジェクトであらうって。で、80ヶ所ほどの避難所を地元畳店が回って、自治体と打ち合わせて必要とされた約40ヶ所に、畳をお届けしました。その際に、地元の畳店さんやイグサ農家さんも「この場所を使って」とか手伝ってくれて。熊本での出来事で、「ああ、そうか、“送る側”と“送られる側”なんじゃなくて一緒にやっていくんだ」と痛感したんですね。

有田: はい。だからそれを機に「災害時に、全国の畳店から避難所に新しい畳を無料で届けるプロジェクト」だけだったのを、「+被災地の畳店が、全国の仲間から避難所に敷く畳を受け取るプロジェクト」と定義を追加することにしました。つまり主語は2つなんだと。

前田: ここでメンバー全員でプロジェクトの方向性を確認できましたよね。だから以降の被災地でも、地元畳店が“受け取る側”として、自分たちも大変な中、現地を走り回ってくれる。言語化しただけじゃなくて、形としてちゃんとつながっていています。そしてそれはこのプロジェクトが全国に点在している畳店のプロジェクトだからこそできていることだと思います。だから今もこうやって継続できてるんじゃないかな。



1・2:防災訓練やイベントなどで「なぜ避難所に畳を届けるのか」を子どもたちにも知ってもらうため、オリジナルの紙芝居を制作。裏には読み方の工夫がメモしてある付箋がずらり。3:イベントや防災訓練時に多くのパネルでPR。4:前田と一緒に振り返る、有田。対談は3時間にも及んだ。5:これまで毎年の活動を新聞にしてきた。協定を結ぶ自治体にも配布している。6:普段は同じ地域で競合する畳店が、訓練では同じエプロンを身につける。

被災者目線で ありたい。

有田:ほんとにこの活動を始めた頃には想像もしなかったことに何度もぶちあたりました。その度に立ち止まって考えて。

前田:うん、めちゃくちゃ考えました。誹謗中傷を受けたこともあったし。

有田:でもそういうときにいつも大事にしてきたのは「被災者目線であるということ」。

前田:はい。それは絶対大事にしたかった。誹謗中傷を受けたときも、正々堂々と話し合いをしてもよかったわけですが、そういう姿を被災者が見たらどう思うかという気持ちになるだろうと考えよう。だからあえて何もしないことを選択しました。

有田:送る畳の裏に被災地の方に向けてメッセージを書くかどうかもプロジェクト内でずいぶん議論に。

前田:悪いことではないし、みんなの想いもわかるからずいぶん悩みましたが、被災地の100人中99人がありがたうって言うてくても、1人でも「自分らがええことしてるって勝手に盛り上げて」って気持ちになる人がいるなら絶対にやるべきじゃないんじゃないかって。あの時に有田さんが「この無地の畳こそ自分たちのメッセージがある」ってみんなに言ってくれたんですね。

有田:畳店のプロジェクトとして畳を届ける。それだけで十分想いは伝わるはずだから。熊本地震の時、地元の小さなご飯屋さんがぎつとご自身も大変な中、お店を開けていたことがずっと記憶に残っています。「こんな時に商売して」って言う人もいたかもしれないけど、自分のできることをしようって思ったんじゃないかなと。ご飯屋さんはご飯を作る。畳店は畳を作る。「商売」かもしれないけど、社会のためにそれぞれ役割を果たすからこ

そ地域が復興する。このプロジェクトもそんな存在でありたいと。自分たちも知らなかった畳の効能も。

前田:これは活動の副産物ですが、避難所で畳を使っていたことで、改めて畳の役割を考えることにもなりました。避難所の方に入り口に畳を敷くだけでみんな自然と靴を脱ぐんですとか畳だと自分の家みたいに掃除をされて衛生的になりましたとかって言っていただいたことも。あとは音。体育館に畳を敷いたら話し声が吸収されるっていうのは我々も全く想像してなかったことでした。スリッパを履かなくなったことでベタベタという足音がなくなったことはとても助かったと。睡眠時間の足音は気になりますもんね。

有田:避難所に一部でも畳があるのはありがたい、っていう声もいただきました。

前田:「家に帰ってきたみたいで、足をのぼせる」とか、「畳の上でみんなで朝ドラ見ます」とか言っていただいて。

有田:絶対体育館全部に畳を敷かないといけないわけではなく、一枚でもあれば、と思ってもらえたら嬉しいですよ。

前田:そのためには、日常から地域のみなさまに災害時に畳が届くこんな仕組みがあるというのをわかっていただくのも大事だと、防災訓練にも参加するようになりました。その時になぜ避難所に畳を届けるのか、というも伝えてます。あたたかい、香りがいい、湿度調整もできるし、防音にもなる。そしてメンバーも防災訓練で「こうやって畳が届くんですよ」って毎年地域の方に言うわけですから、自分たちの決意みたいなものにも繋がっていると思います。

想いも、関係も。 熟成されてきた。

前田:10年以上活動を続けてきて、メンバーの想いも熟成されてきた感じがします。こういう活動って最初はやろうやろうと盛

り上がってもだんだんしぼんでいくこともあると思うのですが。

有田:このプロジェクトはそうはなってない。

前田:みんなで活動して、共有してきて、経験して、困ったこともみんなで考えてやってきたから。名を連ねるだけじゃなくて、こういう時はこうしたらいいんじゃないかなって一人ひとりが考えてきました。

有田:それは協賛企業さんもですよ。

前田:本当に。畳業界に関わるみなさんがこれだけたくさん協賛してくださっているだけでもすごいことなんですけど、お金だけじゃないから。

有田:災害時の集積所として駐車場を貸してくれたり、自社トラックの便に畳を乗せてくれたり、平常時には展示会のスペースを無料で使っていいよって言ってもらったこともありましたよね。

前田:そうやって畳業界全体でこの活動をサポートしてきていただいた感じがあります。本当にありがたい。

有田:だからこそ、全国の畳店とともに10年以上続けてこられました。

前田:その中でも活動の軸がブレなかったのは、あの南三陸町の方の言葉を大事にしてきたからだと思うんです。だからこれからもその原点だけは大事にしないとけないなって。

有田:「我々がどうしたい」じゃなくて、現地の人の声をしっかりと聞いて、感情を感じとって、どう思うんだろうとかを考える。それを前田さんはじめ、みんながずっと続けてきた。

前田:これからもそれをやり続けるだけじゃないかなと。想像できないような課題は今後もきつとたくさん出てくる。でもそこを大事にしていたら、これからも続いていけるんじゃないかなって思います。

ACTION

5000枚の約束。参加量店は日頃から、防災訓練への参加や、自治体との積極的な協定締結を行っています。



[活動報告]

協定締結

2025 01月 → 2025 03月

災害時の活動をスムーズにするための自治体との協定。各地域の量店が積極的に自治体にお声がけさせていただき、活動しています。



2025年

- 01/29 【山形県】 中山町と防災協定を締結。 **A**
- 02/19 【高知県】 香南市と防災協定を締結。 **B**
- 03/21 【富山県】 高岡市と防災協定を締結。 **C**
- 03/24 【岐阜県】 富加町と防災協定を締結。 **D**



[活動報告]

訓練活動

2024 08月 → 2025 05月

量が届くことを広く知っていただくための防災訓練やイベントへの参加。すべては量店にできる前もつての準備です。



2024年

- 08/25 【愛知県】 春日井市総合防災訓練に参加。 **A**
- 09/17 【静岡県】 富士宮市とのライフライン防災連絡会に参加。 **B**
- 09/29 【山形県】 山形市防災フェスティバルに参加。 **C**
- 09/30 【岡山県】 倉敷市浜の茶屋 1 町内会防災訓練に参加。 **D**
- 10/06 【山形県】 上山市総合防災訓練に参加。 **E**
- 10/06 【山形県】 天童市総合防災訓練に参加。 **F**
- 10/13 【東京都】 足立区総合防災フェスティバルに参加。 **G**
- 10/14 【静岡県】 「駿河フェス」に参加。 **H**
- 10/18 【石川県】 「能登半島地震から学ぶ事業継続」研修に参加。 **I**
- 10/20 【岐阜県】 不破郡垂井町防災訓練に参加。 **J**
- 10/20 【石川県】 加賀市総合防災訓練に参加。 **K**
- 10/27 【神奈川県】 平塚市総合防災訓練に参加。 **L**
- 10/27 【千葉県】 印西市総合防災訓練に参加。 **M**
- 10/28 【京都府】 近畿府県合同防災訓練に参加。 **N**

- 11/02 【東京都】 町田市防災フェスタに参加。 **O**
- 11/10 【山梨県】 甲府市総合防災訓練に参加。 **P**
- 11/17 【東京都】 立川市防災訓練に参加。 **Q**
- 11/24 【千葉県】 松戸市防災フェアに参加。 **R**
- 11/24 【東京都】 青梅市総合防災訓練に参加。 **S**
- 12/08 【徳島県】 徳島市民総合防災訓練(国府地区)に参加。 **T**

2025年

- 01/21 【兵庫県】 阪神淡路大震災 30 年事業防災訓練に参加。 **U**
- 01/21 【岡山県】 真庭市防災訓練に参加。 **V**
- 01/26 【徳島県】 徳島市防災訓練(昭和地区)に参加。 **W**
- 01/25 【兵庫県】 伊丹市総合防災訓練に参加。 **X**
- 02/24 【高知県】 土佐市防災フェスタ 2025 に参加。 **Y**
- 02/25 【千葉県】 鴨川市地域防災フォーラムに参加。 **Z**
- 03/8・9 【東京都】 台東区総合防災訓練に参加。 **A'**
- 05/25 【千葉県】 富津市防災フェスタに参加。 **B'**

プロジェクトの歩み。 | 2014-2025

Chronicle



はじめに

東日本大震災。何か月経っても冷たい床の上での避難生活をされている映像を毎日のように見る。畳店として、何とかしたい。でも、どこに連絡すればいいのだろう。かえって迷惑になるのではないか。各地の自治体を訪問し「自分達ができること」「自治体と一緒にできること」「自治体をお願いすること」などを模索する。東日本大震災で被災され避難所生活を経験された方のお話を聞きに宮城県南三陸町を訪問。そこで聞いたお話がずっと心に残る。

「新しいブルーシートが敷いてあったものの、冷たくてどうしても子供を寝かせられず壁にもたれながらずっと抱っこをしていました。」「あの時、畳があれば添い寝をしてオッパイをあげることもできたかもしれません。」

災害時に動くのではなく、前もっての仕組みを全国の仲間とつくりたい。

2014

1.14 神戸市と防災協定

畳を届けるんだ

前もっての準備として、各地自治体との連携を始める。

前もっての準備として、各地自治体との連携を始める。冷たい床に畳を敷けば、痛みを少しでも和らげることができる。

2015

11.25 長野県北部地震

避難所 1カ所に 40枚の畳を届ける

5.29 口永良部島・新岳噴火
避難所 (屋久島) 4カ所 140枚の畳を届ける

9.9 関東・東北豪雨
避難所 3カ所 217枚の畳を届ける

地元の畳店であることが重要。

プロジェクトのメンバーが被災地に入り、避難所の皆様に畳をお届けすることができることを伝える。

- ・避難されている方にとって身近にある信頼 (怪しくない)。
- ・全国のメンバーに被災地の状況 (避難所や道路等) を適時に知らせることができる。

この気づきから次への行動

プロジェクトの認知

地域の皆様に、「災害時の避難所に畳が届く仕組みがある」ということを、平常時から知っていただく必要がある。各地での防災訓練・防災イベントに積極的に参加。防災関係者との連携も図る。

2016

4.14 熊本地震

避難所 40カ所 6026枚の畳を届ける

「送りつける」はいけない。

被災地メンバーが熊本県内の避難所約 80カ所を巡回。各自治体との打合せを重ね、必要と判断した避難所約 40カ所に畳をお届けする。数カ所の避難所が集約されるタイミングには畳の移設も。新たな避難所にパーテーションや段ボールベッドが設置される前に畳を避難所の全面に敷く。

再利用・軽量化

各地自治体との話し合いでは、畳の再利用についての提案・紹介も始める。避難者の方自身が授乳室や子供の遊び場となる教室などへの移動をしていただきやすくするため、お届けする畳を軽量化にする。

本当に必要な物、そのタイミングは被災地にしかわからない。「お届けする」から「受け取る」へ。最初から最後まで。

この気づきから次への行動

2017

7.10 九州北部豪雨

避難所 5カ所に 386枚の畳を届ける

2018

6.19 大阪北部地震

避難所 2カ所に 40枚の畳を届ける

6.28 西日本豪雨
避難所 16カ所に 718枚の畳を届ける

災害の種類によって、避難所の様相が違う。

岡山県内のメンバーは「受け取る」活動に集中。各地避難所を地元・近隣メンバーが巡回し、自治体と打合せを実施。

種類に応じた対応が必要。

経験を伝える

その災害の種類だけでひとくくりにするのも違うが、地震、噴火、水害、の避難所を経験してきた。メンバー間での共有はもちろんだが、各地域にお住いの皆様とも共有をしていこうと考える。

この気づきから次への行動

2019

9.6 北海道胆振東部地震

避難所 2カ所に 45枚の畳を届ける

2020

10.12 令和元年台風 19号

長野市の避難所 7カ所に 482枚、栃木市の避難所 1カ所に 40枚の畳を届ける

2021

7.3 令和 2年 7月豪雨

熊本県内の避難所 2カ所に 60枚の畳を届ける

コロナ禍での活動を考える

2020年が始まるとともに、思いがけない速度で日本中に広まった COVID-19。未知のパンデミックが起こる中でも災害は生じる。その際に我々がどう動くべきか、何をすべきか、刻々と変わる状況にあわせこのプロジェクトの在り方を見つめ直しつづける。

地元畳店だからできることを、模索しなおす。

活動時に検温・消毒の徹底、自分たちで避難所に畳を敷くのではなく施設スタッフの方へ入り口で手渡しするなど、行動規範を見直し活動。畳をお届けする他にも、地元畳店だからこそ県境を跨がない行動、土地勘の情報を周囲へ提供できないか? など、自分たちの強みを考え動く。

2022

長らく防災訓練も中止や自粛で参加出来ない日々が続いたが、2022年からは再開する自治体も増えた。様子を見つつ、我々も参加し活動の認知や災害時のための訓練に努める。

2023

2024

2025

1.1 能登半島地震
避難所 13カ所に 1073枚の畳を届ける

他の機関・団体とどう折り合いをつけるか、検討を続ける。

各避難所を巡回し状況を見聞きしながら自由度をもって提案していくという当プロジェクトの方針と、全ての避難所で統一した仕様・運営管理を目指す D-MAT (輪島市役所) との方針が一致せず、活動半ばで活動を停止せざるを得ない状況に。今後の活動でも同じことが起きることが想定されるため、避難所での衛生面、避難者の状況など、聞き取りを続ける。



"5日で5000枚の約束。" は下記の畳店とともに活動しています。

(※2025年7月末日現在。各都道府県ごとに50音順。)

【北海道】(有)関畳店、(株)たたみ工房 柴田、たたみの宮崎、(有)タニグチ 【青森県】一戸畳製作所、斎藤畳内装(株)、(有)高森畳工、つしま畳店 【岩手県】(有)阿部製畳店、大森畳店(同)、角掛畳店、高橋畳店、(有)中村畳店、(有)平畳店、(有)村山畳店、(有)盛岡畳工業、八重見畳店、(株)吉田畳店 【宮城県】齋藤畳店、清水畳店、(有)只見工業所、(有)田中畳店、(株)藤吉畳店、(株)ベルシステム、(株)和楽 【秋田県】山田たたみ・ふすま店、(有)渡部畳店 【山形県】阿部畳店、荒木畳店、今間畳店、城戸口畳店、斎藤畳屋、(株)ジャブライズ、庄司畳店、高橋畳製作所、(株)たたみの小池、畳屋清兵衛、富山畳店、増川畳店 【福島県】かりの畳店、(有)櫛田畳店、(有)久保木畳店、(株)創成 【新潟県】今井畳店、茨木畳店、平畳店、高原畳工業、(株)富岡産業、中村畳工業(株)、新潟大和(株)、(有)宮島畳産業 【富山県】稲毛畳店、(有)北島畳店、(有)坂林製畳店、指物畳店、株式会社曾田、高松製畳所、恒田畳店、(有)富山製畳所、沼田畳内装(株)、畑畳店、(株)富士製畳、村田畳製作所、(有)森製畳、吉沢たたみ店 【石川県】(有)石川製畳工業、内村畳店、島内たたみ店(同)、(株)畳のやまや、(有)得能製畳工業、直健畳工業所、藤沢畳工業、(有)松本製畳、水上畳店 【福井県】(有)朝日室内工業、大嶋畳商店、中村畳ふすま(株) 【茨城県】淡島畳産業、井坂畳店、(株)イシイ畳リフォーム、入山畳店、岩瀬畳ふすま店、大島畳店、有限会社大竹商店、きくちたたみてん、(有)高野好見畳店、(株)九重、(株)関川畳商店、水越畳店、よしや畳店、よしゆき畳店、(有)渡沼畳店 【栃木県】(株)井岡畳工業、宇都宮畳工業(株)、梅澤畳工業(株)、篠崎久作畳店、STK 酒井畳工業、(有)枝製畳、大橋タタミ(有)、こはらざわ畳店、(有)小堀畳店、鈴木畳工業、鈴木たたみ店、関本畳店、相馬製畳所、(有)高田畳店、(有)高野畳店、高橋畳店、武下英勇畳店、たたみ工房あおき、谷口畳店、手塚畳店、長塩畳店、日里畳店、(有)星野ほしの畳店、(有)松沢畳店、山口製畳、横山製畳、和久畳店、渡辺畳店 【群馬県】(有)青木製畳、上原インテリア、(有)クローバー畳装、桜井畳店、竹澤畳店、萬治畳店 【埼玉県】(株)アキモト、(株)浦光、大川屋畳店、(有)オオノ畳工業、(株)岡田本店、柿沼畳店、(有)セキ畳店、(有)タナカ、畳屋くまちゃん熊木畳本店、畳ヤマギシ本店、福島畳店、(有)森田商店、(有)山崎産業 【千葉県】(有)池田畳店、青柳畳店、池田畳店、(有)岩瀬、(有)オサダ、(有)久保木畳店、(株)コクボ、米井畳店、(株)新藤商店 浦安支店、(有)杉浦ホームサービス、鈴木畳店、たたみ・ふすまの石井、(有)谷田部畳工事店、長谷川畳店、備後屋畳店、ヒラマ畳工業、(有)広嶋屋、森畳店 【東京都】青木畳店、(株)あなみず、安藤畳店、(株)石川畳店、石渡畳店、(株)いまい、(有)岩瀬畳店、海老澤畳店、(有)大川畳店、(有)岡田畳店、小川畳店、大久保畳店、加藤畳店、(株)加藤畳店、(株)キツタカ、(株)金井畳店、金原畳店、小森谷畳店、小曾根畳店、(有)小堀、(有)佐々木畳店、合同会社さわはた畳屋、鈴木畳店、(株)セキグチプラネット、高岡屋 常川畳店、高岡屋常川畳店、(有)高木畳店、中島畳店、(有)中山製畳店、中山畳店、(株)ナルシマ、野村畳店、(株)橋本畳店、葉本畳店、半澤畳店、(株)ひさごや畳店、本橋畳店、(有)森たたみ店、矢島畳店、(有)柳井畳店、(有)八巻畳工業 【神奈川県】池谷畳店、ウスイ住装(株)、(有)内田畳店、大矢製畳(株)、小野畳店、(有)加藤畳店、柏屋 佐野畳店、熊澤畳店、郡司畳店、小宮畳店、佐藤畳店、佐藤畳店、島田畳店、杉本畳店、砂川畳店、高城畳店、坪井畳店、東横製畳 菊名店、(有)新倉畳店、野上畳店、萩原製畳(有)、(有)原製畳所、原文畳店、古田畳店、(有)マルコ住総、(株)丸清、三谷たたみ店、山崎畳店、(株)RUSH ART 清田畳店 【長野県】飯田畳店、(株)インテック左右田、内田畳製造工業所、小林製畳店、タタミクス、畳工房マルヤマ(株)、(株)トータルタタミサービス、(有)半藤畳店、(有)マルヨシ北沢産業 【山梨県】青山畳店、(株)ウエケン、小澤畳工業所、(有)権正畳店、権正畳本店、(有)斎藤畳製作所、斎藤畳店、塩沢畳店、清水畳店、篠原畳工業所、畳内装丹沢、田中畳店、中沢畳店、津津畳店、(有)古田製畳、堀田畳製作所、深澤畳店、村松畳店、渡広畳店 【静岡県】坂部畳店、佐藤畳店、(株)新海畳店、(株)杉本商店、たたみ工房ときわ、(有)畳利 西村畳店、立宿 望月畳店、田中畳工業、坪井畳店、軒村政春畳店、(株)松永畳店、松葉畳店、(株)八幡製畳 【岐阜県】(有)アールエフインクワイアリー、天池製畳、おおつか畳店、大野製畳(株)、小畑畳店、(株)国枝、(有)たかぎ、高木畳店、畳工房のぐち、中部井上(株)、辻畳店、(有)成瀬製畳、名和畳店、(有)ハヤシ製畳、松井畳店、(有)松葉製畳、(有)三宅製畳、三宅畳店、山本畳店 【愛知県】(株)浅井商店、(有)浅井畳店、石黒畳店、今井畳店、(有)及部畳店、(有)加藤製畳店、(有)片山内装、(有)川端畳製作所、国際加工(有)、熊崎タタミ店、(株)柴田製畳所、(有)鈴木畳店 平和が丘店、角谷畳店、(有)宗宮畳商本店、TSUNODA(有)、(株)マルキン、(有)築山畳店、中川タタミ店、乗本畳店、(有)林畳商店、(株)菱源畳店、山中製畳(資)、(有)山脇畳店、(有)吉兼畳店 【三重県】(有)石川畳店、石原畳店、大平畳製造所、田中畳店、中部畳材(株)、中村畳商店、平野製畳(株)、(有)堀木畳店、丸澤畳店 【滋賀県】卯田畳店、鳥本製畳(株)、久田畳店、(有)の場たたみ店、山田ため畳店 【京都府】石井製畳、井ノ口畳店、(株)オザワ、関西畳工業(株)、きぬ川畳店、(株)元禄畳、沢辺畳店、シズノ畳店、(有)炭谷、高室畳工業所、(株)にしむら、(株)マツモト、もとやま畳店、(株)矢野畳商店 【奈良県】インテリア平郡、(株)上杉商店、織田畳店、(株)塚本畳商店、中西たたみ店、南たたみ店、ふくもと畳店、細川畳製作所、山岡たたみ店 【大阪府】うえむら畳商店、上村畳店、(株)大阪川島商店、大阪畳(株)、(株)大西畳店、(株)尾山畳店、(株)小池商店、小藪商店、(有)さくらい、(株)澤田商店、たきい畳店、畳のイチオカ、(有)田中畳店、田村栄(株)、田伏製畳、西田産業(株)、日新製畳(株)、八田畳産業、前本畳店、山本製畳、(株)吉金畳商店 【和歌山】後畳店 【兵庫県】浅木畳店、(有)あわとく、伊奈畳店、上野畳(株)、(株)植村畳、(株)ウメタニ、うのたたみ工房、FJホーム(株)、(株)大亀、大西商店、奥井畳店、尾西製畳、近都畳製造所、小西製畳(株)、(有)頃安畳商店、(株)スガオ、(有)角新蔵商店、田居畳加工所、高橋畳店、(有)武田商店、畳のヤスダ、谷口畳店、但馬畳材(株)、月徳畳店、時友畳商会、(株)ナガサワ、橋本畳店、ハセガワ製畳、花房畳店、平方畳店、(有)藤原商店、藤原畳店、北部畳、堀本畳店、(株)前田畳製作所、(株)三木商店、宮下畳店、(有)元川製畳、森井畳襖店、森岡畳店、森脇畳店、(株)山田畳商店、吉田製畳 【鳥取県】(株)マツワ 【島根県】(有)イダネ畳店、山陰製畳(有)、(有)竹内畳店、松尾畳店 【岡山県】(株)赤木製畳、猪木畳店、(有)池田畳店、石原畳材(有)、磯崎畳店、大西畳工業、岡畳製造所、岡部畳店、亀井タタミ店、鴨井畳店、河上畳店、古林畳店、清水畳店、高村たたみ店、畳横佐古商店、(有)坪井畳店、中村畳工業(有)、二宮畳店、(有)はないえ畳店、藤井畳店、藤田光一本店、藤原畳店、森田畳店、(有)森川畳製造所 【広島県】石井畳店、甲斐畳店、木河畳店、新和畳襖店、(有)清水畳装飾、(株)内藤畳店、(有)西原たたみ店、猫本タタミ工業(株)、広島畳材(株)、向井製畳所、(有)向井製畳所、山陽畳工業(株)、(株)和ごころ工房、(株)渡邊畳店 【山口県】(有)石野畳店、西日本畳(株) 【徳島県】藍原畳店、植田畳店、桐井畳店、佐野たたみ商会、(有)杉本商店、(株)高畑畳店 【高知県】岩井畳製作所、大寺畳店、(有)おかぞえ、(有)岡村畳製作所、岡村畳店、(株)小栗、古味たたみ店、畳いけうえ、中谷畳内装、野中久畳店、本山畳店、吉田畳店 【香川県】合田たたみ店、たたみ工房中川、(株)間島畳装飾、(有)山下畳商店 【愛媛県】(株)しげとう商店 【大分県】(有)いのくま畳店、(有)佐藤たたみ工房、二豊製畳(有) 【福岡県】岩村畳店、因たたみ店、(株)奥川畳店、(有)柿原産業、粕屋製畳(株)、(有)熊丸畳店、(株)佐野畳屋、徳田畳襖店、(有)増田商店 【佐賀県】青畳工房 古賀畳工業所、中島畳店 【長崎県】(株)勝手、酒井タタミ店、たいら畳店、たたみの福田、(有)中山好人商店、(有)ヒロシ畳店 【宮崎県】(有)あがりお畳、(株)イマムラ、武田畳店、(有)とくどめたたたみ屋、(株)中西たたみ襖店、浜田畳・襖店、丸山畳店 【熊本県】(株)秋吉、(資)一期崎畳店、岡部商事(株)、唐津畳店、倉崎商店(株)、里永製畳、(有)高尾畳店、竹村畳店、(株)たたみ工房福島、(資)村田畳工業、森塚畳店



当プロジェクトの活動は以下の企業のみなさまに支えられています。

KANEKA
カネカケンテック株式会社

 **萩原株式会社**








アゼアス株式会社 大一商事株式会社 デュポン・スタイロ株式会社 高田織物株式会社
 トクラテック株式会社 株式会社備後ムラカミ 山中産業株式会社

株式会社キビ 株式会社興陽 株式会社コバヤシ商事 株式会社島村

大川敷物株式会社 株式会社斎藤商店 熊本支店

株式会社浅井商店	株式会社阿部製量	有限会社荒巻豊商店	株式会社池田貞男商店	(株)石亀	株式会社いづもや
有限会社岩本商店	株式会社大地屋	有限会社恩田商店	株式会社カネイ	かねた屋溪商店	川村興産株式会社
(株)きしもとホーム・ワーク	北村化学産業(株)	株式会社クリタ	黒田産業株式会社	株式会社ケイセイ	光洋産業株式会社
有限会社佐々井商店	三栄量材有限会社	有限会社システムライツ	株式会社寺本広吉商店	有限会社天水商店	株式会社トクラ
トランクトラスト株式会社	株式会社中屋商店	(有)中沢吉太商店	株式会社永瀬商店	株式会社野村商店	株式会社針谷商店
株式会社ハヤシ	有限会社原康之商店	半瀬商店有限会社	肥後物産株式会社	有限会社平田商店	株式会社廣野商店
株式会社やまいち	有限会社山崎産業	山根商店	株式会社山万	株式会社ナベヤ	

◆協定を締結させていただいた自治体一覧 締結順に掲載しています。(2025年7月末日現在)

Table with 4 columns: No., 自治体, 日付. Lists 195 municipalities and their agreement dates.

最後に

祭りが繋ぐ能登の暮らし。

「能登の人は強いからね」。避難所の量の上で机を囲んで世間話をしてくださった母親世代の方たち。大きなお仏壇、花嫁のれんやその意味を能登の文化として教えて下さいました。能登で暮らしてきた覚悟みたいなものも。魚も美味しい野菜も美味しい、お祭りもたくさんあって能登は最高なんだと地元自慢はキラキラと止まらなかった。

「いまは慣れ親しんだ場所を離れるという選択をあちこちで聞き、『いずれは』と想像していたことがあまりにも一気に進んでしまっ。みんなそれぞれ言葉にはできないことを飲み込みながら、最善を探っています」という、松本さんのお話。

災害直後の励まし合いの言葉と、次の世代を想い絞り出された言葉に、胸が詰まります。同じ地域のお祭り仲間がいるから励まし合っていると聞いた避難所がありました。これからもお祭りが心の支えのひとつとなって、人、世代、暮らしや文化を繋いでくれますように。

(事務局長・発起人 前田敏康)

CONTACT

当ペーパー・プロジェクトへのご質問やご要望は以下までお願いします。

□ 当プロジェクトとの防災協定について

- [関東地区] 小川畳店 TEL / FAX : 03-3605-6285
[甲信地区] 小澤畳工業所 TEL : 055-251-2948 / FAX : 055-251-1177
[中部地区] 乗本畳店 TEL : 0533-86-6833 / FAX : 0533-84-5320
[近畿地区] 榎大亀 TEL : 079-430-2230 / FAX : 079-430-2210
[四国地区] 株式会社高畑畳店 TEL : 088-692-2130 / FAX : 088-692-2580
[九州地区] 酒井タタミ店 TEL : 0957-63-0673 / FAX : 0957-63-4558
その他の地区については
[事務局] 株式会社前田畳製作所 TEL : 078-578-0172 / FAX : 078-578-0173

□ その他のお問い合わせについて

- [事務局] 株式会社前田畳製作所 TEL : 078-578-0172 / FAX : 078-578-0173

<5日で5000枚の約束。プロジェクトメンバー各位>

当プロジェクトのホームページ内、[参加畳店専用ページ] で活動に関する資料の閲覧やダウンロードが可能です。